

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年12月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100330		
法人名	株式会社シーフォークリエツ		
事業所名	グループホーム 山ぼうし		
所在地	広島市安佐北区白木町大字字原890番1号 (電話) 082-828-7636		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100330-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東四丁目11番13号
訪問調査日	平成29年12月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・当事業所が力を入れている点は、他施設間との交流を行っており、職員間の実習や見学に出向いたり、他施設の入居者同士の交流を行っている。互いのいい所を取れ入れ、入居者の皆様には、より良いサービスの提供や、楽しみを持って頂く為に、取り組んでいます。
・地域密着型を目指し、当事業所の行事に地域の方々をお招きし、入居者との交流を図り、又地域の清掃にも積極的に参加する事で、信頼関係を築けるように取り組んでいます。地域包括支援センターからの、認知症サポーター養成講座の講師の依頼を頂き、地域の中学校や小学校に伺い認知症についての理解と協力を精力的に行う事で、地域との交流や地域包括支援センターとの密な関係を図れるように取り組んでいる事が、アピールしたい点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム山ぼうしは、自然に囲まれた環境にあり四季を感じながら生活している。地域との交流も盛んで地域の清掃に参加されたり、近所の方が散歩の途中にぶらりと立ち寄られ、自家栽培の野菜を頂いたりしている。リビングは南向きで大きな窓がありとても明るい空間になっている。1階のスペースでは生活リハ訓練に力を入れていて、利用者のADLレベルを維持するのに役立っている。利用者の特性に合わせた対応として、個々の認知症状・性格・趣向の理解や、生活歴・職歴等の把握を行っている。利用者一人ひとりがその人らしく過ごす事が出来るようにアセスメントにおいて方向性を決め、コミュニケーションのとり方に配慮している。又、利用者同士の連帯感や協働意識も必要と認識しながら支援にあたっている。少人数ではあるが集団での生活の中で適切な人間関係が築けるよう、コミュニケーションへの配慮やフォローも行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝申し送り後、職員皆で理念を復唱し、実施できるように努めている。	事務所に理念「常に利用者さんとご家族の立場に立って考え行動します。地域との連携を図り職員一同やりがいと満足感が持てるよう頑張ります」を掲示し、毎朝職員の申し送り時に唱和し共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設の行事に参加したり、地域との合同で防火訓練活動の実施や、認知症サポーター養成講座を通して、地域との交流を目指している。	町内会に入っており回覧板が回って来て、地域の行事（清掃・とんど祭り）等に参加している。近隣の方が散歩の途中ぶらりと立ち寄りられたり、御自宅まできた野菜（ナス・ゆず）・花を持参して下さっている。近隣の福祉施設に花火を見に行ったり、小中学校・公民館での認知症サポーター養成講座の講師をして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの要請で、認知症養成講座を開催し、地域の人々に理解と支援の方法をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月1回運営推進会議を開催し、当施設の現状や今後の展開などの報告を行い、出席者からの意見を頂き、実施して行く事で、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・施設長・管理者・職員が参加し、提供しているサービス内容・近況報告・生活状況・空室状況・行事報告等話し合っている。さらに、地域の様々な情報を収集する場として活用し、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者も居ますので、生活科と連絡を密に取り、いいケアサービスになるように、協力関係を築き取り組んでいます。	市担当者とは直接出向いて相談したり、電話で助言を得たり、情報交換している。連絡協議会時等で情報交換をしている等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話等で相談や情報交換をして、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	フロア会議で身体拘束への認識と身体拘束をしてはいけない事の重要性を呼び掛け注意を呼び掛けています。	内部研修を実施しており全職員が共有して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をせず、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも注意合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	フロア会議で身体拘束への認識と身体拘束をしてはいけない事の重要性を呼び掛け注意を呼び掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用している入居者に対して、後見人の方に入居者の近況報告をおこなったり、相談をし、密に連携を取る事で、後見人の役割と重要性を理解するように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に家族へ近況報告の電話での連絡や、理解を得ている。また、家族より疑問がある際は、その都度説明を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議や面会時に家族へ近況報告の電話での連絡や、運営推進会議での要望や意見などあれば反映するように取り組んでいる。また、1階玄関に意見箱を設けている為、意見あれば反映するように取り組んでいる。	毎月の近況報告や家族の面会時やサービス担当者会議開催時や電話で利用者の近況報告を行い、意見や要望を聞くようにしている。1階玄関に意見箱を設けていて、利用者家族より「良くしてもらっている」という意見が入っていた事がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、職員とコミュニケーションを取り、職員の意見を反映できるように心掛けている。また、フロア会議においても、職員一人一人の意見を聴き反映できるようにしている。	朝礼時や1ヶ月に1回のフロア会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞き話し合っている。施設長の方針で「職員の意見をよく聞く」との事で、普段から良く意見が出ており、検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の賞与、親睦会、リフレッシュ休暇、勤務希望を取り入れる事で、働きやすい環境をつくるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部からの講師をお招きし、施設内勉強会を開催し、職員一人一人のレベルアップに取り組んでいる。また、施設外研修に参加し、新しい介護技術や知識を学び、職員を育てる取組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流を図り、他施設に実習に行く事で、職員の向上心や技術・知識のレベルアップに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に、コミュニケーションをしっかりと行い、本人の性格や思いを知り、話を傾聴する事で、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に家族様ともお話し、家族様の想いをしり、希望を傾聴する事で、安心して頂けるように関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からお話を傾聴する事で、必要としているサービスを検討し、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の方々にも、無理がない程度にお手伝いをお願いし、一緒に行う事で、お互い支えあって生活をしていると思える環境作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や月末電話連絡で家族に近況報告と意向を聴き、家族と入居者の橋渡しの支援を行い、両方の想いを反映する事で、共に協力し支えて行く関係作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会電話連絡で、制限を設ける事はせず、いつまでも関係が繋げられるように支援している。	友人や親戚等の来訪時は居室やリビング等、希望の場所へ案内し、ゆっくりと過ごしてもらえよう配慮している。ドライブを兼ね自宅を見に行ったり、行き慣れたスーパーへの買い物や行きつけの病院・法事・墓参り等へ出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	グループレクリエーションや行事の参加をお勧めし、入居者同士が交流を図れるように		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移られた入居者の面会に伺い繋がりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の気持ちを聞き、可能な限り実施できるようにしている。また、入居者の意思を尊重しつつ、その人らしい人生を送れるように、支援している。	入居時の面談で本人や家族から生活歴や身体状況、暮らしへの希望、趣味等を聞き、アセスメントシートに記載し、以前の事業所からの情報等もまとめて思いの把握に繋げている。入居後は日々利用者に関わる中で意向に繋がる情報等記録し、困難な場合は家族から聞く事もあり意向の把握に努め職員間で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、家族や福祉利用施設より、情報提供して頂き、入居者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の一日の生活状況を記録する事で、職員全員が入居者の状態を把握できるように努めている。また、朝の朝礼で、注意する点を申し送る事で、再確認と現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族・担当職員・入居者・介護支援専門員が半年に1回サービス担当者会議を開催し、意見交換を行い、現状に合った介護計画書を作成し、実行している。	利用者を担当制にしており、職員からの意見を記録している。本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、それらを検討し3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態や要望の変化があった場合にはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌に記載する事で、職員皆が情報を共有し、どの様に対応したらいいか、考え介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の日々変化する状況に合わせ、既存のサービスに捉われない、柔軟に対応できるように、報告・連絡・相談の徹底を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換により、地域資源の情報を受ける事で把握するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所と提携している協力医に受診や往診をしているが、家族の要望があれば、入居する前から通院していたかかりつけ医に受診するようにしている。	かかりつけ医は提携している協力医療機関に決めている。眼科・皮膚科・耳鼻科等専門医への受診は基本家族にお願いするが、多くの場合職員が対応している。受診後は、介護記録と業務日誌で職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護にて、入居者の状態を報告したり、適切な対応を行っている事で、入居者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、入居者の情報や状態を細目に連絡を行い、お互いが状態の把握ができるように努めている。また、定期的に訪問する事で、協力医との関係を築けるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。また、入居者の状態が悪くなった時点でも家族に状況報告と相談を行い納得して頂いている。	契約時に「重度化や終末期の対応指針」に基づき、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族の意向を確認して、かかりつけ医と相談し、方針を決め全職員で共有し、支援に努めている。看取りに対する支援については、看取りに関してはしない方針ですが、家族の要望でお一人看取りをしている。かかりつけ医や看護師と連携を図りぎりぎりまで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内勉強会で急変時の説明や実技を行う事で、職員が急変時の対応ができるように入居者の安全確保に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている。	地域住民・消防団員と連携を取り、年2回は訓練を実施する事で、協体制を築いている。また、月1～2か月おきに、施設での消防訓練を実施する事で、職員1人1人が避難方法を身につけるようにしている。	消防署の立ち合いの下、年2回避難訓練を実施している。昼間・夜間想定で利用者にも参加してもらい、通報や初期消火、避難誘導、水消火器訓練を実施している。地元消防団もかかわりを持って、災害時の避難場所になっており、実際に台風時には地域の方が避難されている。	地震・水害時を想定しての訓練も考えておられ、今後実施される事を期待します。
1のい					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	勉強会やフロア会議で職員に説明する事で、入居者の尊厳を重視しプライバシー保護に関しての意義づけを行っている。	言葉遣いは丁寧に心がけると共に話すスピードや声の高低にも留意し、わかりやすく聞き取ってもらえるように配慮をしている。名前は苗字で呼び、入室時はノックと声掛けを行い、排泄の支援時にもさりげなく声を掛けるようにしている。不適切な対応があれば管理者が注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者からの要望があれば、傾聴し可能な限り施設内で対応できる範囲内であれば実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、入居者を第一に考え、要望や希望があれば、可能な限り入居者の希望に副った対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	起床時に整容する事で、身だしなみに気を付けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の能力に応じた作業をお願いし、職員と入居者が一緒になって食事の準備や片づけを行うようにしている。	自立支援の視点から、食材のリストアップ・献立の決定・調理・盛り付け・配膳・下膳・食器等の洗浄・テーブルまわりの整備等は可能な範囲で主体的に行えるよう支援している。職員は利用者個別に合った作業を随時に提供し、見守りと声かけに努めている。女性利用者が多く、台所・食事関係に興味を持つ方も多い状況も活用し、出来るだけ自主的に関わりを持ってもらえるよう丁寧な支援を行っている。職員も利用者と同じ食事を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量を記録し、1人1人の状態を把握する事で、安定した食事量・水分量が摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施する事で、口腔内を清潔に保ち、磨き残しや自己でのケアが難しい方には、職員が声掛けや介助を行う事で、口腔内を清潔に保っている。また、定期的に、歯科往診にて治療して頂く事で、虫歯や歯周病の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ訴え時、速やかに介助できるように、心掛けている。また、排泄パターンを把握し、定期的にも声掛けを行いトイレ誘導を実施している。	排泄チェック表を活用し、お一人おひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、さりげない言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。トイレでの排泄を基本とし排泄のリズムを把握し、声掛けやトイレに案内する事で失敗が少なくなるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	天気がいい日は、散歩やグループプレクの参加をお勧めし、適度な運動と水分をしっかりと、規則正しい生活を送る事で、便秘の予防に努めている。排便チェックを行い、定期的に排便コントロールを行い、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	業務上や入居者の体調により入浴日を設定している。毎日の入浴の対応が出来ていない。その日の体調に合せ、入浴日の変更をし、気持ちよく楽しく入浴できるように配慮している。コミュニケーションをとり、楽しく入浴できるように心掛けている。	入浴は週2～3回でゆっくりと入浴出来るように支援している。入浴をしたくない人には、時間の変更や声かけの工夫、職員を交代する等支援している。利用者の状態に応じてシャワー浴、清拭、足浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。入浴時は職員と利用者のコミュニケーションを良くとれる場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の休みたい時間に休んで頂いている。寝れない場合は、職員と話をし傾聴する事で、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各職員のファイルに処方されている薬やその効果を添付する事で、職員1人1人が薬の把握をし、症状や変化に気を付けるようにしている。		

グループホーム 山ぼうし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中で、全てを介護士が行うのではなく、入居者と一緒になって行う事で、入居者にも現役の時と同じように、役割を持って出来る範囲で行っている。また、行事ではおはぎを入居者と一緒作り、懐かしく楽しめながら食べる企画を取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	天気が良い日は、散歩に行くようにしている。また外出行事も行い、施設外に出て気分転換を図る取り組みも取り入れている。家族の希望があれば、家族協力の下、外出にも出かけられ家族で楽しめるように支援している。	事業所周辺の川土手を日向ぼっこがてら散歩している。近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけている。又、湧永公園にバラの花を見に行ったり、近隣のお寺に花見に出かけている。湯ぼつぽに寸劇を鑑賞に出かけている。利用者の希望によって近所のラーメン屋さんに出かけている。家族と外食や墓参り・法事に出かける利用者もいて、お一人おひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、金銭管理はご家族か、施設で管理しているが、入居者からの依頼があれば、購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や、手紙のやり取りがしたい場合は、できるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア内は、シンプルにする事により、落ち着いた空間にしている。四季を楽しんで頂けるように取り組んでいる。	リビングは南向きで明るく、対面式キッチンを利用者の様子がよくわかり開放感あふれる場所になっている。室内にはテレビ・机・椅子がゆったりと配置しており、壁面には季節に合わせた折り紙やちぎり絵の作品が掲示されている。台所からは調理の音や匂いがして生活感があふれている。光はカーテンの開閉で調節し、温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流が取れやすいように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使い易い環境に整えている。又入居者の生活にあった環境に整え不便なく過ごせる環境に取り組んでいる。	居室には馴染みのテレビ・筆筒・仏壇・写真・時計・小物飾り等本人の使い慣れた物や大切にしている物を持ち込んでいる。居室内に洗面台があり、利用者の思い思いの装飾をしたり、壁には誕生日の写真や家族の写真、カレンダーを飾って、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物の内部は、バリアフリーに設置しており、安全に安心した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 山ぼうし

作成日 平成 29 年 12 月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	現在1～2ヶ月置きに施設内で消防訓練を実施しているが、地震や水害に関する訓練がなされていない。	いかなる場合、どのような災害が発生しても職員が落ち着いて行動できる。	施設内消防訓練と同様、1～2ヶ月置きに避難訓練を実施して行く。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。